

「人口減少社会における公共施設について考える」 若穂地区 市民との懇談会を開催しました。

6月19日（水）若穂支所で、地区の皆さまにお集まりいただき「人口減少社会における公共施設について考える」懇談会を開催し、ご意見をお聴きしました（裏面をご覧ください）。

開催にあたりご協力いただきました
関係者の皆さま、ありがとうございました。

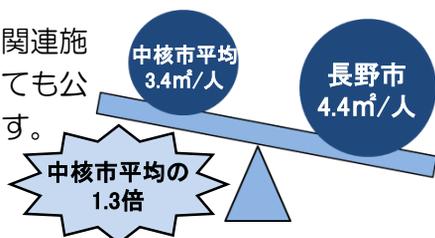
説明会当日の資料は、市ホームページに掲載していますので、
こちらをご覧ください。



懇談会では「なぜ公共施設マネジメントに取り組むのか」などについて、市から説明しました。当日説明した内容のポイントをご紹介します。

市民一人当たりの床面積は 中核市平均の1.3倍

長野市は、オリンピック関連施設などもあり、全国的に見ても公共施設を多く保有しています。



築30年以上経過の老朽化施設が約2分の1

昭和40～50年代の急激な人口増に対応するため造られた施設は老朽化が進んでいます。

オリンピック関連施設も築20年が経過しました。



建物の改修・更新費用は
40年間で約4,000億円

老朽化施設を改修・更新するための費用は、過去5年間で比べると平均で約1.8倍の予算が必要です。

人口減少や少子高齢化に伴い、今後も社会保障関連経費の増加や、税収減少が見込まれる中、将来にわたり全ての施設を維持していくことは困難な状況です。

そこで！

「公共施設マネジメント」の推進

「公共施設等総合管理計画」 平成29年3月策定

基本理念：「将来世代に負担を先送りすることなく、より良い資産を次世代に引き継いでいく」

- ◆施設の複合化、多機能化しながら、**施設全体の床面積を20年間で20%縮減**を目指します。
- ◆計画的な点検・改修による**施設の長寿命化**を図ります。

「個別施設計画」 令和2年度までに策定します！

- ◆施設分野ごとに**今後10年間の具体的な対策**を定めます。
- ◆個々の施設の維持保全や更新、統廃合などの具体的な対応方針を示します。

計画策定にあたり、各地区で懇談会やワークショップを開催しています！



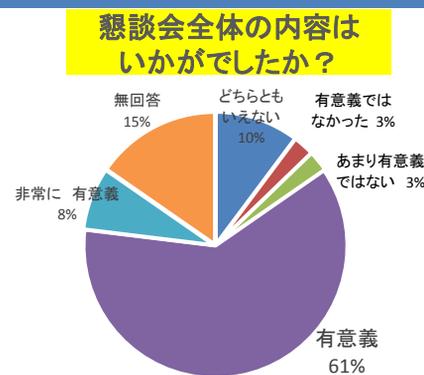
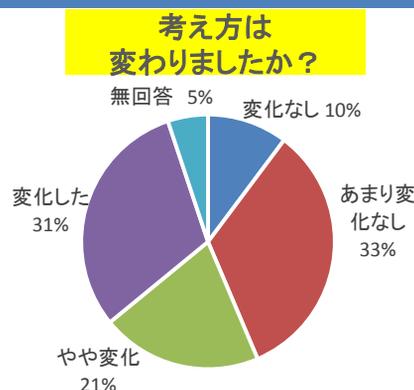
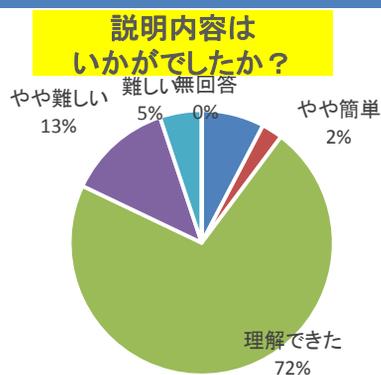
当日の参加者からの主なご意見をご紹介します

- ◆公共施設がたくさんあり、維持するのに大変なお金がかかることを改めて認識した。今後、長野市内の施設を20年間で20%を縮減するというのも理解できるが、どんな施設をどのように再編するかは、施設利用者の声などを聞いてみないとわからない。
- ◆若穂は、支所、公民館、保健センターと施設が一箇所にとまとっており、こういうところは、有効に活用すればもっと効果的に使える施設になると思う。
- ◆多目的に利用すべきとの説明であったが、管理状況や低利用な施設など不明な施設もある。市としてもっとオープンにした方が活用しやすくなるのではないかな。
- ◆学校の空き教室が学校が管理しており思うように使えない。学校も市の施設であり、市が指導性を持って活用できるようにすべき。

【公共施設マネジメント推進課のコメントより】

⇒ 令和2年度中に個別施設計画を策定していく中で地区の皆さんからのご意見も伺って合意形成を図っていきたいと考えている。

懇談会終了後 参加者アンケート結果 (出席者47名 回答者39名)



自由記載欄等より

- ◆建設する時は必要があるから作ったはずだが、時間の経過とともに必要性も変化しているはずであり、見直すことは大事だと思う。
- ◆既存施設の多目的活用をもっとすすめるべきである。
- ◆総論賛成でも各論になると色々な意見が出てくるかもしれないが、もう総論的な議論をしている段階ではないと思う。
- ◆人口が少なくなることは明らかである。施設の維持は無理と考える。早めに理解をいただき対処すべきである。
- ◆民間企業とのタイアップを検討すべきである。
- ◆総論はわかったが、一方で市が建設を進めているもの（市が必要としているもの）にも厳しいハードルを設定すべきである。

再編・再配置にあたっては、今回の懇談会などでいただいたご意見等も参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまのご意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などは、右記お問い合わせ先までお寄せください。
出前講座もやっています！

【お問い合わせ先】
公共施設マネジメント推進課
電話:224-7592
若穂支所 電話:282-2400